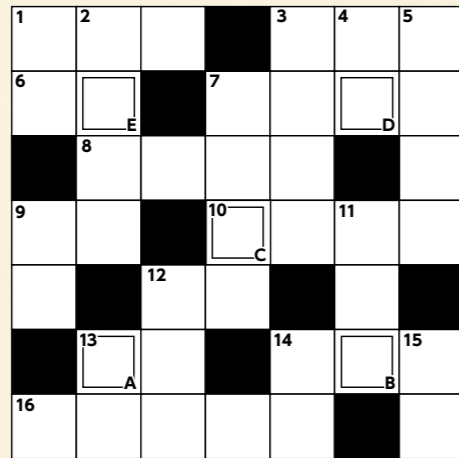
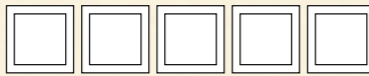


Merのキーワード! Crossword Puzzle クロスワードパズル

正解者から抽選で5人にクオカード(2000円分)を差し上げます。

□のマス目に「答え」が隠れています。パズルに言葉をあてはめ、□□□□□の5文字を並べ替えてください(今号は「ガイアの瞳」にヒントがあります)。タテ・ヨコのカギには特集記事にまつわる言葉もあります。ぜひ、チャレンジしてみてください!

二重マスを並べ替えてできる言葉



タテのカギ

- 1 ○○・昼・晩。隠していたものが現れること、○○○○を現す。
- 2 「雲呑」の読み方は、○○○を現す。
- 3 「雲呑」の読み方は、○○○を現す。
- 4 ○○は万病のもと。
- 5 柳の水の特徴、微量の○○○○を含むこと(9ページ)。
- 7 駅の従業員。卵の黄色部分。「欠片」の読み方は、シマウマを英語で、傘マークのお天気。
- 9 「都度」の読み方は、○○○年。○○客。未○○。

ヨコのカギ

- 1 ○○○もえくぼ。
- 3 社歴が浅い○○○社員。
- 6 一寸○○は闇。
- 7 自らの主義や主張を話すこと。スピーチ。
- 8 「東海道中膝栗毛」の主人公の略称。
- 9 50円玉に描かれている花。
- 10 ハンコ。○○○○証明書。
- 12 慣用句「○○は急げ」。
- 13 ことわざ「○○蜂取らず」。
- 14 「氷柱」の読み方は、○○○○○○グリーン色の滝つぼ(3ページ)。
- 16 ○○○○○○グリーン色の滝つぼ(3ページ)。

パズルの応募方法

EメールまたはFAXで、①パズルの解答「□□□□□」②住所・名前・電話番号③本誌を受け取った場所④今号で印象に残った記事⑤Merへのご感想を記入し、右記宛先へ。送信は1人1回のみ(複数応募は無効)とさせていただきます。

宛先

メール: koueki@uitech.jp
FAX: 06-4963-2087
締め切り/12月28日(木)。

※前号の答え= **ブルーカーボン** でした。多数のご応募、ありがとうございました。

Merとは

「Mer(メール)」とはフランス語で「海」を意味する言葉。命を育んだ海と、メッセージを伝える「メール(Mail)」の音を重ねています。本誌は、大阪府内を中心とした下水道情報を織り交ぜながら、水そのものや水環境、都市環境、水にかかる生産活動などに関する幅広い分野の情報を掲載しています。この冊子を通じて、これからも水という大切に身近な存在を通して、私たちの暮らしと未来について考えていきます。

バックナンバーはホームページに掲載しています。

人と地球のうらおい
マガジン・メール
2023年10月号

発行 一般財団法人 都市技術センター
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2丁目2番5-206号 船場センタービル5号館2階
TEL 06-4963-2056 <http://www.uitech.jp/>

人と地球のうらおいマガジン

FREE
magazine

[メール]

Mer

vol.35
2023
October

清流紀行 P02

「蜻蛉の滝」(奈良県吉野郡)

ガイアの瞳 P04

「新たなトンネル式放流設備が完成!
~天ヶ瀬ダム再開業事業~」

すいじんのまじわり
水人之交 P08

「京の黒染屋が守る柳の水」(京都市中京区)

大阪府内の下水道情報 P12

センターだより P14

クロスワードパズル P16

天ヶ瀬ダム(上部から下流を望む)

清流紀行

（奈良県吉野郡）
蜻蛉の滝

3カ所の滝見台を楽しむ



交通アクセス/奈良県吉野郡川上村西河
国道169号五社トンネルを抜けてすぐ右折
駐車場:100台(あきつの小野公園)
電車:近鉄吉野線大和上市駅下車、湯盛温泉杉の湯
行きバスで西河バス停下車、徒歩約30分



美しい虹が彩る

落差約50メートルの滝

下方の滝見台から迫力ある流れを望む

トンボの伝説から命名

大和市内から車で約1時間半。奈良県、吉野の山奥でハイカーたちを魅了する滝見スポットがあります。蜻蛉とは、トンボのこと。「日本書紀」によると、その昔、第21代雄略天皇がこの地に狩りに来たことがありました。自ら獣を射ようとしたその時、突然大きなアブが飛んできて、天皇の肘に食いつきました。すると、どこからともなくトンボが現れ、そのアブをかみ殺したのだそう。天皇はトンボを大いに褒めたたえ、この地を蜻蛉野と呼ぶようになったと言われています。古墳時代の最強天皇として知られる雄略天皇の「蜻蛉伝説」に由来する滝は、落差約50メートル



芭蕉門下である宝井其角の句碑

と迫力満点。晴天には太陽の光を受け、たしづきが虹を浮かび上がらせることから、別名「虹光」という呼び名でも親しまれています。

蜻蛉の滝は、奈良県が清澄な水を有する地点として指定する「やまとの水」（計41カ所）の一つ。また、「紀伊半島自然100選」にも選定されています。歴史は古く、万葉集にも滝の記述が見られます。その美しさに、松尾芭蕉、本居宣長など多くの著名人が足を運んだそう。滝見台への道中では、趣たっぷりの句碑も探してみましょ。今も、四季折々の美しさが訪れる人々を魅了する蜻蛉の滝。春は桜、夏は川涼みを楽しみ、秋には見事な紅葉に包まれます。

三つの滝見台から異なる表情を楽しむ

あきつの小野公園の駐車場から、園内の鳥居をくぐり、階段を上っていきましょう。約5分歩くと、まずは中ほどの滝見



天気の良い日には虹を見ることができます



中ほどの滝見台からの眺め



中ほどの休憩所から下方の滝見台へ続く、らせん階段



あきつの小野公園内をゆったりと流れる音無川



美しい滝をそっと見守る「不動堂」

台に到着します。計3カ所の滝見台から、それぞれの景観を楽しめることもこの滝の魅力です。中ほどの滝見台からは、迫力ある流れを至近距離で見られます。爽やかな空気に包まれながらひと息つきましょ。滝の中に虹が現れれば、その神秘的な演出に時を忘れて見入ってしまいます。豊かな水量が生み出す力強い音と、陽光に照らされてキラキラ輝く水しぶき。ここは、非日常の空気に包まれています。滝見台に設置された石のちょうず鉢から柄杓で水をすくい、そっと口に含むのも幸せなひととき。休憩所のベンチに座って、ダイナミックな景観を味わうのもおすすめです。



ちょうず鉢のある滝見台でひと息ついて

滝のそばにある不動堂は、静けさの中で存在感を放ちます。荘厳な雰囲気のお堂を右手に見ながら、細い坂道を上

てすぐの上方の滝見台へ。ここからは、さながらエメラルドグリーン色に澄み渡る滝つぼを間近で見ることができました。実は、蜻蛉の滝の上部にはもう一つ滝つぼがあり、滝が2段になっていることがわかります。



滝つぼの澄んだ水の色に癒やされます

最後の滝見スポットである下方の滝見台へは、先ほどの休憩所からつながるらせん階段を下りていきましょう。細く急な階段のため、目が回らないようにゆっくりと気をつけて。ここは、真正面から滝の全景を眺めることができるぜいたくなスポット。初夏はいきいきとした青もみじ、秋には風情ある紅葉の情景が滝と見事に調和します。豊かな水量を誇る蜻蛉の滝は、音無川へと注ぎ、駐車場へとつながるあきつの小野公園の中をゆったりと流れていきます。

立ち寄り“水”SPOT

山を借景に紅葉が映えるあきつの小野公園



公園内を流れる音無川(上)と紅葉

万葉集にも登場する景勝地。吉野の最高峰、青根ヶ峰を源流に音無川が流れます。春は枝垂桜や山桜、秋は色鮮やかな紅葉がフォトジェニック。蜻蛉の滝へは、こちらの駐車場(無料)を利用すると便利。鳥居をくぐり、階段を上っていけば滝に到着です。ぜひ滝の周囲の紅葉とあわせて堪能したいスポットです(※園内ではマナーを守って楽しみましょ)。

ガイアの瞳

新たなトンネル式放流設備が完成！ ～天ヶ瀬ダム再開発事業～

京都・宇治市の中心部から宇治川を約3kmさかのぼると現れる、ドーム型のアーチ式コンクリートダム。2013年に着工した「天ヶ瀬ダム再開発事業」は、国内でも珍しいトンネル式放流設備の建設が進められてきました。2022年夏に運用が開始され、その治水や利水機能向上に大きな期待が寄せられている天ヶ瀬ダム。日本最大級のトンネルが担う効率的な洪水調節の仕組みと、防災への思いにフォーカスします。

天ヶ瀬ダム下流からの全景(右手前がトンネル吐口部)

日本最大級！「トンネル式放流設備」の建設 >>>>

■天ヶ瀬ダム再開発事業とは

台風や梅雨前線により、琵琶湖周辺や宇治川では、これまで浸水被害がたびたび発生してきました。天ヶ瀬ダムの左岸部に新たなトンネル式放流設備を建設することにより、効率的な貯水池運用を図り、洪水調節機能の強化や安定した水道用水の供給を目的とした、再開発事業。上流側や下流側に新規のダムを建設するには土地がなく、また、既設のダム本体に穴を開ける案もありましたが、アーチ式コンクリートダムの内部には鉄筋を有して構造上困難なためNG。最終的に現在のトンネル式が採用され、周囲の環境や安全に配慮しながら工事が進められてきました。

天ヶ瀬ダム再開発事業の諸元

場所	右岸 京都府宇治市横島町横尾山地先 左岸 京都府宇治市横島町六石山地先
目的	洪水調節・水道用水の確保
型式	トンネル式放流設備
構造	内径 10.3m、最大幅約 23 m、高さ約 26 m
計画放流量	600m ³ /s (EL72.0m)
延長	617m



天ヶ瀬ダム流域図(出典：琵琶湖河川事務所)

■治水と利水を目指して

治水 放流能力を增強し、ダムの治水容量をより効率的に活用することで、天ヶ瀬ダムの洪水調整機能を強化しました。
⇒最大900m³/sの放流能力を、**1,500m³/sに增強!**



下流に対する効果

宇治川や淀川本川への洪水調節機能を強化



琵琶湖周辺に対する効果

琵琶湖の水位を速やかに低下させ、周辺の洪水被害を軽減

利水 貯水池運用の効率化により、洪水対策や発電に影響を与えることなく、より多くの水道用水を取水できるようになりました。
⇒新たに1日あたり約**17万人分**の水を安定的に供給!



1日あたり約17万人分の水を新たに確保できます

京都府の水道用水の確保(出典：琵琶湖河川事務所)

■五つの構成と役割



流入部 天ヶ瀬ダムから水を取り込みます。点検や修理時に流水を遮断する「修理用ゲート」を設置しています。

導流部 ダムの水を流すトンネル⇒内径10.3mの大規模円形トンネルです。

ゲート室部 放流する水の量を調節するゲートがある施設⇒「主ゲート」と「副ゲート」をそれぞれ2門設置しています。

減勢池部 放流する水の勢いを緩めます。

吐口部 天ヶ瀬ダムにたまった水を宇治川に流します。

■放流時の勢いを緩めるトンネル内減勢方式

天ヶ瀬ダムのトンネル式放流設備は、延長617m、最大トンネル幅約23m、高さ約26mと、水路トンネルとしては日本最大級。大規模地震に対する安全性も考慮されています。

また、騒音や水勢における下流環境への配慮から、「トンネル内減勢方式」を採用。ゲートから放流された水がシュート部と呼ばれるスロープを下り、その先にある副ダムにぶつかって、水の勢いを弱める構造です。
※現地縮尺1/40水理模型実験により、実際の減勢効果を確認



水理模型を水のめぐみ館「アークア琵琶」で展示中(滋賀県大津市)▶

より安心・安全な暮らしのために、 これからも誠実に取り組みたい

国土交通省 近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所
副所長 原田 豊彰さん



●治水への期待が高まる、 新たな放流設備

2013年に着手したトンネル本体工事は9年間の月日を経て、昨年8月ようやく運用を開始。全ての通水試験も問題なくクリアし、ほっとしています。今年3月には完成式典を開催し、滋賀、京都、大阪の自治体代表など関係者139人のご臨席のもと、事業の完成を報告。防災への期待と、「引き続き流域の皆様と協力し、水害対策に全力で取り組む」という豊田国土交通副大臣(当時)のメッセージが記憶に残っています。

広大な琵琶湖を抱えている天ヶ瀬ダム。下流の宇治川・淀川を考えたとき、これまでのダム本体の“はけ口”840m²/sだけでは、どうしても小さかった。できるだけ安全に既存プラスαの放流量を確保するために、新たにトンネルを掘りました。もちろん、下流も新たな放流量に対応できる“うつわ”が必要です。宇治川を掘削し流下能力(川が安全に流すことのできる洪水の規模のこと)の強化を図る「塔の島地区河川改修事業」(2009年～2018年)と並行し、調整しながら進めてきました。まずは下流の整備、つまり安全に流せる河川の環境が整ってから……が大前提でした。

●瀬田川洗堰と直列の関係

天ヶ瀬ダムの上流にある、瀬田川洗堰。天ヶ瀬ダムとの連携操作により、琵琶湖周辺の洪水防御、下流の宇治川・淀川両河川の洪水流量低減等の操作を担っています。当事務所の3階には、24時間稼働する操作室があり、「国が定めるルール(操作規則)」に基づき、毎日1cm単位で水位を操作、管理しています。

そもそも、天ヶ瀬ダムは瀬田川洗堰と直列で、瀬田川から宇治川へとつながっています。つまり、洗堰の操作いかんによって、天ヶ瀬ダムが同じ放流量を流す形になっているんです。例えば台風が過ぎ去った後、晴天の日に琵琶湖の水位(台風による大雨で上昇)を下げるために、洗堰を「全開」。新たなトンネルができたことで

天ヶ瀬ダムの“はけ口”が大きくなり、安心・安全のもとに流せるようになりました。逆に、天ヶ瀬ダムが洪水調節(ダムに貯留する操作)



瀬田川洗堰(取材日は10番目のゲートから放流)

を行った時や下流淀川の水位が基準水位より上昇した時は洗堰を「全開」。その際、琵琶湖畔での浸水被害は否めませんが、できるだけ速やかに洗堰を開けることで「短時間での浸水にとどめる」。つまり、湖畔の被害を軽減する役割をも担うのが新たなトンネル式放流設備なのです。

●暮らしのなかにある河川

洗堰からの放流量や琵琶湖の水位については、当事務所屋上の案内盤でお知らせしています。文字だけの端的なメッセージですが、近隣の皆さんはよく見られているようです。いろいろご意見をいただくこともあり、川は日常に溶け込んでいるのだなあと気づかれます。

水位や放流量に関しては国によってルールや基準値が定められていて、それに準じて私たちが操作をしています。全開放流の際は30分ごとに警報アナウンスを流し、車でも川のそばを巡りして直接お声がけもします(府外から越して来られた方からは、アナウンスが多すぎるとお小言をいただくことも……)。天ヶ瀬ダムの放



トンネル流入部は、鳳凰湖と称されるダム湖との調和に配慮した建屋

流は梅雨や台風時あわせて年間約50日ですが、その際も「天ヶ瀬ダムから〇〇m²/sを放流しているので宇治川に近づかないように」といった警告を市内随所の案内盤で表示しています。もちろん、台風や豪雨な

ど自然災害はないに越したことはありませんが、安全な放流を支えるトンネル式放流設備は、上下流ともに大変心強い存在ですね。

再開事業終了後、天ヶ瀬ダムのトンネル式放流設備については淀川ダム統合管理事務所(枚方市)へ移管しておりますが、宇治の歴史散策もかねてぜひ現地でダムカードを手にしていただけたら。気軽に

アクセスできる、都心のそばにあるダムって珍しいですよ。琵琶湖河川事務所では、ダム湖の上流で立木観音のある鹿跳溪谷の掘削作業がまもなく始まります。ここも河川の“うつわ”を広げるべく、改修を進めます。ほっともしていただませんが(笑)、これからも皆様に安心・安全を実感していただけるよう、続く事業に全力で取り組んでまいります。

■魅せる!再開事業～広報誌や動画配信サービスを活用

「大規模な再開事業を行う上で、ダムを身近に感じ、理解を深めてもらおうと広報活動に力を入れました」と原田副所長。事業を略称で「アマサイ」とし、ホームページや広報誌、現場見学などで積極的にPRしました。

広報誌「アマサイツーン」は写真や図をふんだんに使い、工事の進捗(しんちよく)や新たな放流トンネルの特徴を解説。完成時まで、ダム周辺の関係機関で配布を続けました。

また、YouTubeで「Biwakokasen CH」を開設し、変化する工事現場の様子を公開。現在は、琵琶湖河川事務所隣接する水のめぐみ館「アクア琵琶」で、パネルや模型などを常設展示しています。



水のめぐみ館「アクア琵琶」

行ってみよう! 関西屈指のアーチ型ダムと美しい鳳凰湖

宇治市街地から約3キロ。自然豊かな琵琶湖国定公園内にある天ヶ瀬ダムは、京阪電車・JR宇治駅から徒歩30～40分で行くことができる、美しい形状の多目的ダムです。周辺には『源氏物語』や『宇治十帖』にちなんだ名所旧跡も多く、歴史ファンやハイキングに訪れる家族連れの姿も。その形が翼を広げた鳥の姿を思わせることから「鳳凰湖」と呼ばれるダム湖には多彩な野鳥が生息し、春は桜、秋は見事な紅葉に包まれます。



◀コンジットゲート(通常の放流コントロールを行うゲート)を至近距離で見学できます



静けさに満ちた鳳凰湖▶

●訪れる楽しみも拡張中!

各ダムで配布している「ダムカード」をご存じですか?天ヶ瀬ダムでは通常バージョンに加え、「建設中」や「トンネル式放流設備」など計3パターンを作成。これも再開事業に親しんでもらうための試みの一つだそう。

また、ダムカードを模した「ダムカレーカード」もひそかに人気!日本ダム協会によるユニークな試みで、全国各地のダム周辺の店舗がダムに見立てたオリジナルカレーを提供しています。



ほんのり甘いそばだしをきかせた天ヶ瀬ダムカレーの「ダムカレーカード」▶

●天ヶ瀬ダムの見学は8時～16時45分(年中無休)。堤頂受付にて見学者にダムカードを配布

水 人 之 交

すいじんの
まじわり

千利休も
愛した名水



京の黒染屋が守る 柳の水(京都市中京区)

京都・三条西洞院で平安時代から続く名水「柳の水」。その昔、千利休が茶の湯に利用したことで知られています。こんこんと湧き出る清らかな水は、京の黒染め染色産業を支えるのになくはならない存在。今も変わらず、染・飲料水として人々の暮らしに根差しています。大切に受け継がれてきた染色や茶事など、名水がつむぐ京都の文化に着目してみましょう。

三条西洞院にある、洛中の名水

京都市営地下鉄の烏丸御池駅から、のんびり歩くこと5分ほど。近世初期に織田信長の息子・信雄(1558～1630年)が住んだといわれる場所に清泉があり、その昔、千利休が茶の湯に用いたと伝えられています。井戸水に直接日光が当たるのを避ける配慮として、そばに柳の木を植えたため、この名で呼ばれるようになったのでしょうか。

1870(明治3)年創業の黒染め専門店「馬場染工業」では、創業時に地下約100メートルから業務用にとくみ上

げ始め、以来一度も枯れることなく今もなお染・飲料水として使用。「お茶にもよし、染めにもよし」の井戸水は先代(4代目)の頃から一般開放され、工房の営業時間内(平日9時～17時)に誰でもくむことができます。

その「京の黒染屋」の入り口から奥へと進むと、左手に趣たつぷりの井戸が現れます。そばに建つ石碑には、この地を「柳水町」と呼ぶようになった歴史などが記されています。



【碑文】この柳水町あたりの地は、平安時代末期には崇徳院の御所があった所で、「今鏡」に「崇徳永治元年新院十二月」九日ぞ三条西ノ洞院へ渡らせ給ふ、太上天皇の尊号をたてまつらせ給」とある。また、近世初期には、織田信長の子、信雄の屋敷になっていたようで、「雍州府志」は「在西洞院三条南元内府織田信雄公之宅井也、斯水至清冷也、植柳於井上避日色、因号柳の水、千利休専賞此水点茶、故茶人無不汲之」此水至って清冷なり、千利休此水を沸してもつばら茶の水とす。町名は、寛永十四年(一六三七)洛中絵図に「柳水町」とみえ、その後、変化はない。なおこの邸跡は紀州徳川氏の京都屋敷となった。

二〇〇一年三月吉日 施主 馬場孝造



染めにもよし、京の黒染屋の井戸水

「柳の水の特徴は、微量な鉄分を含んでいることです」。そう教えてくれたのは、5代目の馬場麻紀さん。黒染め専門店がまだ珍しかった約20年前から黒染師として活躍し、今は6代目(次男の健悟さん)を温かく見守る存在です。水道水とは異なり、最初から鉄分が入っている水を用いることで、普通の黒染めより「濃い漆黒」になるのだそう。柳の水を使って丁寧に染め上げる黒染めは、「秀明黒」というブランドとして確立され、独特の深みをもつ美しい黒染めに全国からオーダーが寄せられています。

事務所の窓越しに見える水くみ場には、ペットボトルやポリタンクを抱えた人たちが次々にやってきます。「もちろん、飲料水にも適しています。定期的に水質検査を受けていますが、一度も悪い成分が出たことはない。だから安心して、皆さんにどうぞ!と提供しています」。



入り口のショーウィンドーには、さまざまな黒染めアイテムが並びます



事務所の向かいにある水くみ場



西洞院通沿いに立つ案内板



奥に工房があり、家紋刷り込み体験ができます

Topics

飲んでよし、料理にもよし! 地域に根差した名水

●柳の水 京都市中京区柳水町75

「スルスッと喉を通る」「ごはんを炊くのにかかせない」など、柳の水ファンは口々にその魅力を語ります。名水で入れたコーヒーは透き通った色でありながら、しっかりとコクがある一杯に。「まずは、そのまま。みそ汁や湯豆腐にもぜひ使ってみてください」(麻紀さん)。大きなポリタンクを台車いっばいに積んで訪れる京の料理人たちの姿もまた、日常の風景。そば、ピザ、料亭など、名だたる飲食店で柳の水が使われています。





老舗黒染屋が誇る「秀明黒」

「全工程で安心して使えるお水。頼れる存在ですね」そうほほ笑むのは、6代目・黒染師の健悟さん。酷暑の取材日は外の気温が37℃でしたが、工房内も同じくらいの暑さ(噴き出す汗をぬぐいながら……)でした。

お茶が溶けやすく、だしの味が決まりやすい水はそもそも不純物が少なく、染色用の薬品もよく溶ける。「水道水と比べて、非常に使いやすい水。微量に含まれる鉄分がポイントですね」(健悟さん)。着用中に色落ち・色移りがないようにするための重要な工程「水洗い」にも柳の水をたっぷりと使用することで、染料がしっかりと落ち退色も少ないの

だそう。

6代目として工房に立つようになってからは、黒の色をさらに究めるべく奮闘。普段使いの洋服にも取り入れることで、表現の幅がグッと広がりました。「日常使いできるタオルハンカチなど、秀明黒を生かしたグッズを開発予定です。新たな京都みやげとして発信したいです」。他にも学生向けの黒染めコンテストなど、次世代を担う層の育成にも携わってみたいと、若き黒染師の夢は広がります。



6代目の馬場健悟さん



手の感覚を頼りに、竹の棒を使って均一になるよう丁寧に混ぜていきます



interview 地域に根差した名水を、これからも守りたい

馬場染工業株式会社 5代目黒染師：馬場 麻紀さん



生まれた時から柳の水に親しんできた私にとって、名水という感覚はなく、日常の中にある水でした。一時、別の場所に住んだことがあったのですが、途端に体調を崩してしまって(3日目でアレルギーを発症)。あらためて「水って大切なんだ!」と実感しました。

一般開放するようになったのは、先代の頃。夏の地藏盆の時、ここはちょっとした休憩所になっていて、一人のおじさんが「お水が欲しい」と言われました。うちの水をコップにくんで差し上げたところ、そのおいしさにびっくりされて。翌日から、小さなヤカンを手に毎日くみに来られたんです。朝昼晩と1日3回、さすがに私たちも仕事の手が止まってしまう(笑)。じゃあ、セルフで!と、表に水くみ場を設置したのが始まりです。

それから口コミで広がるにつれ、だんだん路上駐車や騒音などご近所から苦情が寄せられるように。水くみ場を中(現在の場所)に移動させたり、あれこれ試行錯誤している中で「もう、水を止めてしまおうか」という意見も出ました。でも、「せっかくおいしいって飲んでくれてはる人に申し訳ないなあ」と。周囲にも相談し、「柳の水維持費ご協力」という呼びかけの掲示を決めました。あくまで任意ですが、これを機に周囲の意識が変わったようです。お代は定期的な水質検査や下水道費用等に充当しています。「いろいろ探し歩いて、やっとこの水にたどり着いた」と、わざわざ足を運んでくださるのは本当にありがたいこと。これからも、一般開放を続けていきたいです。

父(4代目)が「秀明黒」にさらなる深みをつけて、5代目の私は洋服の(通常の)黒染めを10年以上やりました。そして引き継いだ6代目が「やっぱり4代目のように、黒の色をもっと究めないと」と、洋服にも秀明黒を取り入れました。だから、秀明黒の世界をさらに究めた



のは6代目ですね。これからも、若い感性に期待しています。遠方からオーダーしていただいたものが出来上がった時、「京都まで取りに行くよ」と言ってくださるお客さまも多く、その際は「空のペットボトルを持ってきてくださいね」と必ずお伝えしています。染めるだけでなく、飲料水としての魅力も味わっていただきたいですから。このおいしいお水で心を込めて染めてるんですよ!と。

織田信長が飲んだ水、利休さんに愛された水……文献をたどっていくとさまざまな記載があって、ありがたいことだと感じます。今年の祇園祭では、おみこしの休憩場所で柳の水をふるまい、近隣の小学校でのお茶会にもご提供を続けています。手があいていれば、水くみに来られた方や料理人さんにお声がけしますし、私にとって貴重な情報交換の場でもありますね。これからも、柳の水がつかないでくれたご縁を大切にしていきたいです。



工房で手軽に体験できる、家紋をデザインしたコースターづくり



市街でめぐる、京の名水

山々から流れる水や降水が京都盆地に集まることで、豊富な地下水が蓄えられている京都。京都御所の周辺をはじめ、京都市の中心部には多くの湧き水や古井戸があり、気軽に訪れることができます。街歩きも兼ねて、ぜひお気に入りの名水を見つけてみてください。

■「醒ヶ井水」

京都と言えば、と語り継がれる名水の一つ、「醒ヶ井」。1803年創業の老舗和菓子店「亀屋良長」の店舗前、醒ヶ井通に面した場所でくむことができます。地下80メートルから湧き出る井戸水は「素材の良さを引き立たせる水」として、和菓子づくりにも使用されています。



店内奥の茶房では、おいしい生菓子とお茶をいただけます

■梨木神社の「染井」の水

京都御所の東側、梨木神社境内にある「染井」。平安時代に宮中の染所の水に用いられていたことが名の由来で、京都三名水の中で1000年以上も枯れることなく現存する唯一の井戸です。境内にあるカフェでは、この御神水で入れたコーヒーを味わうことができます。



染井の水に浮かべると文字が浮かび出る「水みくじ」もあります

■下御霊神社の「御香水」

境内の手洗舎は、「御香水」と言われる地下水。江戸時代の干ばつから人々を救った伝説のある水脈です。



■錦天満宮の「錦の水」

錦天満宮で地下約30メートルから湧き出る御神水「錦の水」は、錦市場を支えてきた水とされています。



命を守る! 街を守る!

短時間集中豪雨などによる水災害に備えます

寝屋川市域を含む寝屋川流域では、面積の約4分の3が低地で、雨水が河川に自然流下で排除できない内水域です。また、急激な都市化の進展により保水・遊水機能が低下しているため、雨水の流出時間は短くなり、流出量が著しく、内水浸水への対策が急務である厳しい治水環境にある中で、近年、短時間の局地的な大雨、いわゆるゲリラ豪雨により浸水被害が多発しています。本市においては平成24年8月に時間雨量143mmの短時間集中豪雨に見舞われ、床上浸水1427件、床下浸水5787件の大きな被害を受けました。

この経験を踏まえ、本市では「命を守る」施策として推進してきた浸水対策事業の一つである「高宮ポンプ場整備事業」が令和5年3月に完成しました。

この事業は、平成24年8月の短時間集中豪雨の被害件数が、市内で最も多かった市内中央部の内水域に流入する外水域の雨水を抑制するため、内水域への流入前に集水する雨水幹線と、集水した雨水を一級河川さんらかわ讃良川へ排水するポンプ場を整備したものです。



高宮ポンプ場整備前と整備後の雨水の流れ

高宮ポンプ場が果たす役割 安全・安心のまちづくりへ

平成28年度から雨水幹線工事に着手し、順次、ポンプ場内の工事を進め、令和4年12月に運用を開始しながら、令和5年3月にポンプ場全体の工事が完成しました。

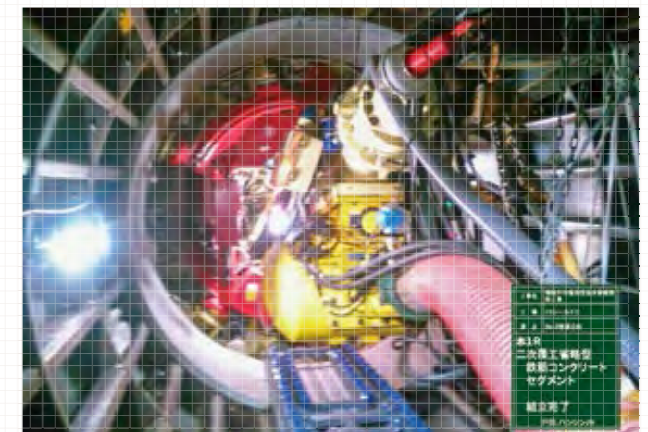
ポンプ場の排水能力は、大小のポンプ3台を配置することで、最大で毎秒10m³(25メートルプール(8コース)の1杯分をおよそ1分間で排水)の雨水を排水する能力を備えており、短時間集中型の降雨や長雨など、さまざまな降雨状況下においても安定的に排水できる機能を有しています。

今年6月2日の台風2号および梅雨前線による大雨では、市内の多いところで総雨量124mm、時間雨量32mmの降雨があり、この時、高宮ポンプ場から約4万5500m³を排水し、治水効果を発揮しました。

現在は、市西部地域において、古川雨水幹線整備事業に着手しており、市民の皆さんが安全・安心して暮らせるよう、今後も浸水対策事業に取り組んでいきます。



平成24年8月
寝屋川市駅前の様子



高宮雨水幹線シールド工法



高宮ポンプ場

お問い合わせ先 |
寝屋川市 上下水道局
下水道事業室(水環境担当)
Tel 072-825-2162

現存する最古の下水道

せわり 太閤(背割)下水をご存じですか!?

大阪の下水道は歴史が古く、都市の基盤施設としての下水道は安土桃山時代にまでさかのぼります。天正11年(1583年)豊臣秀吉は、大阪城築城に伴いまちづくりを進めていきましたが、その手法がユニークで、道路の整備と同時に町屋から排出される下水を排除するための下水溝を建設しました。この下水溝は江戸時代から明治にかけて拡張・改良を行い、400年以上たった現在でも現役の下水道として使用されています。

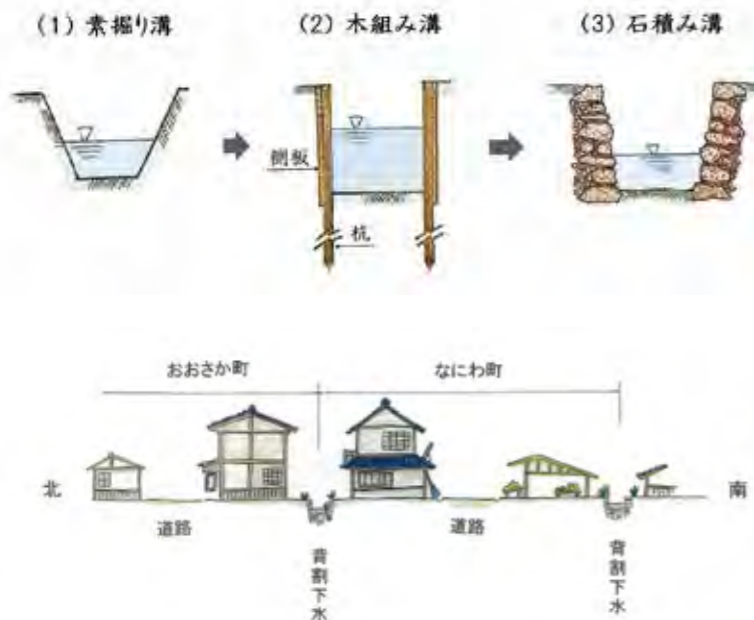
ちなみに名前の由来ですが、この下水溝は道路に面して間口を持つ建物の裏側、すなわち建物が背中合わせになっているところに作られていました。このように建物と建物の背を割って作られたことから「背割下水」、また太閤秀吉にちなんで「太閤下水」とも呼ばれています。

昭和60年4月、大阪市は下水道の啓発を目的として市立南大江小学校西側に見学施設を設置、平成17年度の大阪市文化財指定を契機として、翌18年度にリニューアル工事を実施しています。

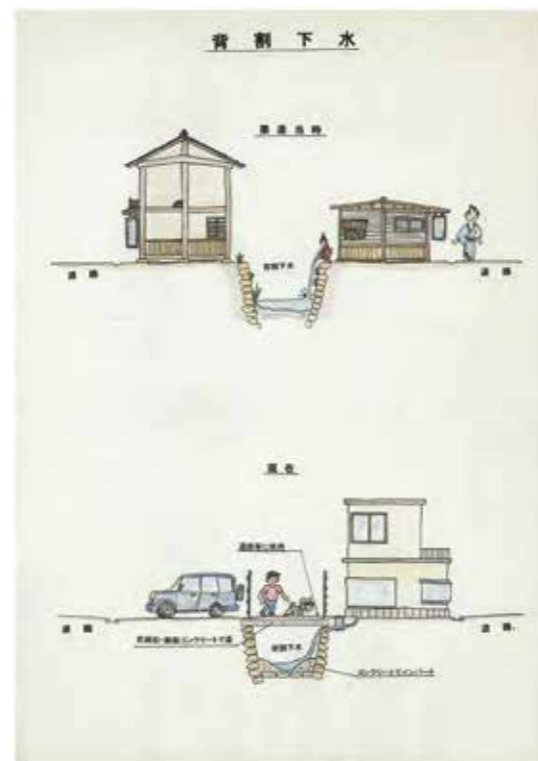
当センターでは、公益目的の事業と位置づけ、大阪市からの要請により見学施設の案内業務に携わっています。

皆さんも一度太閤下水を見学してみませんか?(施設内はちょっと臭いますが笑)。

背割下水の構造



「町割りの状況」図



「背割下水」図



太閤(背割)下水見学施設位置図

平成18年度に、地下見学施設に入ることなく、地上に設置した「のどき窓」から内部の背割り下水が、自由に見学できるようになりました。

- 所在地** 大阪市中央区農人橋1-3-3 (大阪市立南大江小学校西側)
- 交通** 大阪メトロ中央線・谷町線「谷町四丁目」駅8番出口から徒歩5分



地下見学施設

※見学には電話予約が必要です。
お問い合わせは一般財団法人 都市技術センター 下水道課まで
電話:06-4963-2093
見学可能日時等: 毎年1月4日から12月28日の9:30~17:00(土曜、日曜、祝日などのセンター休業日を除く)

見学は無料です。
見学に要する時間は20分程度です。



地上見学施設

Mer vol.35の作成に取材協力・写真提供をいただき、ありがとうございました。

▶清流紀行……………川上村役場 水源地課
▶ガイアの瞳……………国土交通省 近畿地方整備局 琵琶湖河川事務所

▶水人之交……………馬場染工業株式会社